

町長の行政報告

畑作物の生育及び収穫状況について

小麦の収穫であります。7月27日から刈り取りが始まり、8月6日に収穫を完了しております。

収量については細粒傾向で、品質もばらつきが多く、現在、製品の乾燥調製を行つてゐるところであります。推定、製品としては、10a当たり7.7俵と例年の9割程度と見込まれております。

また、その他の作物の生育状況ですが、甜菜は例年より早い雪解けにより、春先は順調に推移しておりましたが、6月以降の激しい気候変動のため停滞と生育を繰り返し、現在は平年並みまで回復しているという状況であります。

スイートコーンは8月27日から早生品種の収穫が始まり、例年より1週間から10日の遅

れに加え、生育状況に加えて圃場格差が大きく全体として昨年より悪い状態であり、その他畑作物に関しても、例年より生育が遅れている状況であります。



作況調査の様子

旬からの高温・干ばつによる生育が停滞し、ついで圃場格差が大きくなると、昨年よりも悪化する可能性があります。

林業大학교について

平成29年7月より、

網走西部流域7市町村

及び関係団体は、網走

西部流域北海道立林業大学校誘致促進期成会を結成して誘致活動に

ともに平年よりも低下

が予想されていること

から実際に、これらの

餌が給与された後の乳

量への影響が懸念され

ているところであり、

特に、収穫量が低下し

た農家では、今後粗飼

料の購入も必要になつ

てくるのではないかと

考えております。

7月上旬、北海道は、

2020年度の開校を

目指す林業の担い手育

成機関「北海道林業大

学校」(仮称)の基本

構想をまとめ、本部機

能は、旭川市の道立総

合研究機構・林産試験

場とされました。林業

大学校は、2年制で定

員40名の予定です。1

年生の講義拠点は、美

唄市の道立林業試験場

と芦別市、下川町の3

力所であります。また、基礎実習拠点は、上

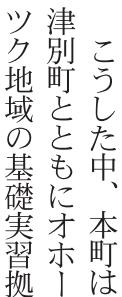
川・オホーツク・十勝の3カ所です。さらに、2年生の実践実習拠点はオホーツクを含めた道内7地域に置き、各地の森林組合や木材加工会社などで長期イン

ターンシップ等を行う内容です。年内にも北

海道は、林業大学校のカリキュラムや市町村との連携体制を具体化

した基本計画を策定するとしています。

こうした中、本町は、津別町とともにオホーツク地域の基礎実習拠点及び実践実習拠点として選定される予定となつております。



林業作業の様子

